

カトリック六甲教会 教会報

イエズス会の教会としての使命

2016年4月から「イエズス会教会使徒職委員会拡大会議」という会議がスタートしました。梶山管区長のもと、イエズス会教会使徒職の共同推進チームのメンバーとイエズス会の4教会（イグナチオ教会、六甲教会、祇園教会、山口教会）の代表が集まり、10年後を見据え、イエズス会の教会として使命に responding していくための課題およびその方向性を作ることを目的にしています。

まず、イエズス会の教会としての私たちの使命は何でしょう。イエズス会の根本的な使命は「福音化」です。その達成のために、①今日の社会的関係において文化順応を推進すること ②諸宗教間の対話や宗教を持たない人々を含む、より多くの人々との協働を推進すること ③管区の枠組みを超えた協働をすることが重要なミッションとなります。



司祭の減少と高齢化により、教会に派遣される神父が少なくなることは問題のひとつですが、梶山管区長は「あまり嘆いていません」とおっしゃいます。「むしろ福音の喜びに生きているかどうかのほうがもっと大切なことですから。それから若い人たちも信仰生活の中に生きることがもっと重要なことでしょう。」

六甲教会評議会でも、少しずつ、結果を出すということではなく、話し合いを始めています。

イエズス会の教会は信徒に必要とされているか。イエズス会の教会は教区に必要とされているか。イエズス会の教会は地域社会に必要とされているか。リーダーシップの養成をどのように行うか。

拡大会議は1年に2回程度開かれ、課題と方向性を見極めていく予定ですが、みなさんも考えてみて下さい。イエスの呼びかけを聴きながら私たちは使命にどのように応えていくか。福音化について私たちに何が出来るか。お互いの交わりの中で共同体としてどのように歩いていくのか。

親しい友人同士で、作業するグループで、共に祈る仲間たちで、分かち合い、語り合ってください。神様の導きを願いながら、私たちはどのように歩いていくか、を。

(小教区評議会 藤井)



ナルドの花たより

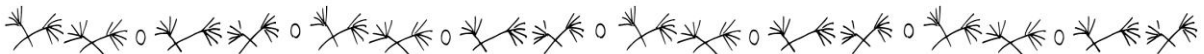
仕えることこそ、主の使命を生きることであり、イエスの弟子となる唯一の道なのです。
Serving is the way that mission is carried out, the only way to be a disciple of Jesus.
(9月19日)

本当にイエスに出会ったことの明確なしるしは、周りの人にそのことを伝える時に感じる喜びです。
The concrete sign that we have truly encountered Jesus is the joy that we show in communicating it to others.
(9月17日)

人々との出会いはすべて、繁茂する木へと成長する種子です。その木の下で、多くの人
が休息と滋養を得ます。
Every encounter with the other is a seed which can grow into a flourishing tree, where many will find rest and nourishment.
(9月20日)

他人も神の賜物であり、何か私に言うことがあると私が認められるとき、対話は生まれま
す。
Dialogue is born when I am capable of recognizing others as a gift of God and accept they have something to tell me.
(9月21日)

私たちがゆるしを願うときはいつも、神は決してゆるしを与えることにうんざりしたりは
しません。
God never tires of offering His forgiveness each time we ask for it. (9月23日)
カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート (邦訳) より



<行事報告>

2016年度 教会学校キャンプ報告 (8月11日～14日)

こんにちは。今年度教会学校キャンプでチーフリーダーを務めさせていただきました、市田です。
昨年度に引き続き2度目のチーフリーダーとしてのキャンプでした。

教会学校のキャンプでは毎年テーマを決めて行っています。昨年度のテーマは「なかま」でしたが、今年度は「みんながヒーロー」をテーマに行いました。3泊4日という時間を共に協力して過ごすことにより、同じ「なかま」を感じることが出来た昨年度のキャンプを踏まえた今、さらなる高みを目指していくには何をすべきなのか。それを考えた時に頭に浮かんだのは、「全員が活躍する」ということです。ただ、全員が協力するに留まらず、全員が自分の力を発揮して活躍する。



そして、自信を持ち、お互いを前向きに認め合える集団になることが更なるステップアップに繋がるのではないかと考えました。さらに、その活躍することこそが「ヒーローになる」ことではないでしょうか。ヒーローになると言っても、何もテレビの世界のヒーローのように強くて格好良くあれ、というわけではありません。それぞれが自分の出来ることを精一杯することで、皆誰かにとってのヒーローとなることが出来ます。これがまさに「みんながヒーロー」であると考え、今回のキャンプのテーマに設定しました。



昨年度の「忍者」に引き続き、今年度はテーマに合わせて、キャンプ全体を通して悪者と正義の味方が登場しました。3泊4日のプログラムでの悪者と正義の味方との交流を通じて、子ども達はほんとうの「ヒーロー」とは何か、ただ悪者を懲らしめるだけで良いのかということ

を深めていきました。また、3泊4日の様々なプログラムの中で、班のなかまの「ヒーロー」的な部分を見つけ、自分が班のなかまや皆のために出来ることは何かを考えて過ごしていきました。

この3泊4日で、皆本当に成長したと思います。1人ひとりが班のなかまのために、皆のために自分の力を精一杯出し切って活躍し、このキャンプに参加した全員が誰かにとっての「ヒーロー」になることが出来ました。それぞれの生活に戻っても、1人ひとりが誰かにとっての「ヒーロー」であり続けることが出来れば、僕もチーフリーダー冥利につきます。



最後に私事になりますが、最終日には子ども達から色紙のサプライズプレゼントをいただいてしまいました。涙は堪えましたが、泣きそうなほど嬉しかったです！

僕自身は、2年間務めさせていただいたキャンプチーフの役職に、一先ず区切りをつけさせていただきたいと思います。次年度以降も新たなキャンプチーフのもと、子ども達のために熱いキャンプが受け継がれていくことを願っています。保護者の皆様、各リーダーの方々、子ども達、これまでキャンプに関わっていただいた全ての方に心より感謝いたします。本当にありがとうございました！これからも教会学校の活動を温かく見守っていただければと思います。

(チーフリーダー 市田)



<行事報告>

ユスト高山右近列福記念講演会 ——列福を前に——（9月10日）

例年秋には雨宮神父様の聖書講座が行われてきましたが、今年は来年2月の高山右近列福式に合わせ、また六甲教会がこの秋から始める右近巡礼ツアーへ向けて、芦屋教会主任司祭・川邨神父様（右近列福運動推進委員長）をお招きして講演会を開かせていただきました。

前半は高山右近の列福・列聖が没後400年もかかった背景・経緯を中心に「聖人」についてお話頂き、後半は右近が中心となって活動した“ミセルコルディアの組”について大阪大司教区でとり組まれている“再新生計画”と今年“いつくしみの特別聖年”そして、“「谷間」におかれた人々…”＝いまの社会の中における列福の意味が語られました。

川邨神父の楽しく丁寧な語りの下、熱心な80余名が参加して、とてもよい集まりとなりました。有難うございました。 K. I.（宣教部）

列福式を来年に迎えるユスト高山右近の記念講演会が、芦屋教会から川邨裕明神父をお招きして行われ、六甲教会だけではなく他の教会からの方も参加し行われました。お話の中で高山右近は殉教者としてではなく、貧困と苦難に満ちた追放の生活で人から見放され「降りてゆく人」となっても、神への忠誠を貫かれました。その人生に福者にふさわしい生き方を感じました。川邨神父のお話は具体的でわかりやすくとても興味を惹くお話でした。（河野）



<行事報告>

三日月会総会「野菊の如き君なりき」（9月19日）

世代に合わせた表題にしました。

1955年松竹より封切られた映画の題名であることはわれわれの世代では、ご存知の方も多いと思います。小生の場合、1955年といえば、ピカピカの中学一年生、勿論学校で武宮校長より厳しく訓育指導があり、場末の映画館には行けなかった為、大学生になってから観た覚えがあります。この映画は旧家に育った政夫と2歳年上の従姉民子との淡い純愛物語でありましたが、政夫が「民さんと一緒にいると、神様に抱かれて雲に乗っているようだ」というセリフが記憶に残っています。

本日は三日月会第37回総会に参加しましたが、この教会の自分より高齢の方々に接すると恰も高級な赤ワインを味わうような、永くさまざまな人生を歩んで来られいろんな経験を積まれたその教養、人間味に驚かせられ、しかもその謙虚な、偉ぶらない人間性に、この映画のセリフの「神様に抱かれ、雲に乗っている」ような感慨に浸れました。

本年は、548名の会員の5分の一にあたる100名強の参加という盛況でありました。その中で男性が23名だけだったことは、少し寂しく思いましたが、この教会のなかではなかなかの圧力団体になりうるなとも感じました。会ではアルフレド神父の挨拶で2つのポイントを指摘されました。一つは神父が会員宅を訪問してもご家族からいろいろな理由を挙げられ会員本人に会えないケースがあること、二つは、現在検討中であるが、クリスチャン・カード（IDカード）を各自もっていただき、迷子になったときや、事故にあったときに備えるといったことでした。

続いて、本日の特別イベントとして、ポーランドから神戸大学に留学されているマチェイエフスカ・イロナ・マリアさんの「日本の高校野球について」という演題での卒業論文の紹介でした。素晴らしい流暢な日本語ばかりではなく、日本における高校野球の文化、そしてその教育効果など、テーマ選定の動機、課題の捉え方、論文構成の的確性にただただ驚くばかりでありました。

いつもながらの鈴木肇さまの名司会で会は進行し、高山神父の締めめの祈りでお開きになりましたが、こうした会を裏方で支えてくださる大勢のかたがたに感謝の気持ちで一杯になりました。蛇足になりそうですが、あと一言付け加えたいと思います。

会の翌日この原稿を書いている時、たまたま発見したネットの情報を紹介しましょう。

最近「悩みを聞いてくれる“おっさんレンタル” 商売」が東京で流行っているそうです。

この「おっさんレンタル」というサービスは、45～55歳の「おっさん」をレンタルすることができるというものです。どの「おっさん」も親しみやすく、優しそうで、ほっとさせてくれるタイプで、ちょっとイライラするという時に、「おっさんレンタル」に電話すると、その「おっさん」が派遣され、会話することができる。「おっさん」に仕事上や、日常生活、人間関係などにおける悩みを打ち明け、一方「おっさん」は、自分の豊富な経験や人生の知恵を生かして、アドバイスし、悩み解消をサポートする。

この記事を読んで、この商売の胡散臭さもないではないが、最近の若者の躰教育（電車の中で電話したり、お化粧したり、老人に席を譲ることもなく携帯ゲームに夢中になっておるといふ醜態は耐えられない）に関しいろいろ問題意識をもっている小生は、この三日月会のパワーを活用した上記に類する若者向けサービス（オジン・オバン・レンタル・サービス！！）が出来ぬものかと、ふと思いました。教会の活動にも何らかの発想の転換が必要かと思う次第であります。

以上、今総会の報告とさせていただきます。会員の皆様、次の三日月会にも是非ご参加ください。お元気で！！

(船井)



総会の前に参加者はアルフレド神父司式のミサに与る。



どのテーブルも和気藹々と。



流暢な日本語で語るマリアさん。

今年の三日月会総会で例会開催について、新たな取り決めを全会一致で決議しました。

9月敬老の日に総会を開催。通常の場合は1月、3月、5月、11月の4回開催いたします。

これまでより回数は減りますが、その分、内容を充実していきますので、皆さま、奮ってご参加ください。

(三日月会 鈴木)

<行事報告>

壮年会・婦人会合同バーベキュー大会（9月25日）

天高く、爽やかな季節になりましたが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

9月25日（日）残暑厳しい中、壮年会と婦人会と共同でバーベキューイベントを久しぶりに開催致しましたが、楽しめましたでしょうか？

ミサ終わりに突然のバーベキューを開催するにあたり、大勢の人たちを楽しめるイベントになるのか少し不安を感じながら準備を進めてまいりましたが、予想以上に大勢の人々に参加していただき、ありがとうございました。準備を進めていた私自身、今回が教会で行うバーベキューに初参加でしたので、分からないことだらけでしたが、頼もしい先輩の方々が大勢いてくださったお陰でも助かりました。

これからも壮年会と婦人会は活動を再開しますので、皆さんと一緒に笑顔で過ごせる時間が少しでも長くなるように頑張ってみます。
(壮年会 安田)



壮年会と婦人会が共同でバーベキューの準備をしました。

お知らせ

◎ 「第1回ユスト高山右近の足跡を訪ねて」ツアー [2016年10月29日（土）]

現在、申し込みを受付け中ですが、バスの残席があとわずかになっています。

ご参加希望の方は、お早めにお申し込みください。

詳細については聖堂前のパンフレットをご覧ください。（宣教部）

◎ 信徒会館の1Fのコピー機について

事務所前のコピー機が新しくなりました。両面コピーもスムーズに出来るので、なるべく配布資料など両面コピーにして紙の節約に心がけてください。

また、操作手順に困られたら、教会受付までご相談ください。（教会受付）



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

 **教会学校**

10月29日(土)～30日(日) 練成会

 **社会活動部**

10月7日(金) 10時初金ミサ後(第2会議室)
社会活動連絡会(バザー打合わせ)

 **典礼部**

10月15日(土)10:00 典礼部会

 **施設管理部**

10月30日(日)12:00 施設管理部会

《 **お 知 ら せ** 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

◆ **社会活動部より** ◆

10月5日(水) 10時 手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでもご参加できます。

10月8日(土) 炊き出し (イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や配食だけでもOKです。

10月16日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

10月24日(月) 9時半 ともしび会 ケーキ作り (イグナチオホールお台所)

秋の黙想会

宣教部では、下記の日時に「秋の黙想会」を開催します。短時間ではありますが、共に神様と語らうひとときを過ごしませんか？

多くの方のご参加をお待ちしています。

★ 日 時：10月22日(土)、10時30分～15時 (14時～ミサ)

★ 場 所：六甲教会主聖堂

★ 指 導：アルフレド・セゴビア神父様

*昼食は各自、ご持参ください。お茶はこちらで用意します。

*駐車場に限りがありますので、公共交通機関でご来場ください



みんなの広場

ロザリオ

ヨハネ 三好

10月7日「ロザリオの聖母」。10月は「ロザリオの月」、あっても不思議ではない記念日ですが、その起源は1571年レパントの海戦でロザリオの祈りによってキリスト教徒がオスマン・トルコに勝ったからだと言われています。我々にはピンとこない発端ですが、今、この日のミサ固有文ではそんな起源は無視されています。「毎日のミサ」では、「神の御子の受肉、受難、復活に特別に結ばれたマリアに導かれて、キリストの秘儀にについて黙想する」と説明されています。(毎日のミサ10月号)

嘗てロザリオを知らない信徒がいて驚いたことがありました。ロザリオの祈りについては「日々の祈り」(カトリック中央協議会刊)にも説明があります。手元にあるはずですから改めて読んでみましょう。

ロザリオは何処にいても、いつでも祈ることができます。本物の「ロザリオ」が手元になくても、小銭入れに入れられる1連分の突起のついた指輪、それもなければ両手の指10本でも代用できます。但し交通事故にはご用心、形だけの上の空にも。

ロザリオの珠の一つ一つ、それはマリア様と主のみ跡を辿ること、“ママ”に手を引かれて。

10月には二人の聖テレジアも記念します。そして、新たにもう一人のテレジアが聖人だと認められました。

編集部員のつぶやき

教会も高齢化が進み、教会行事のお手伝いもたくさんの高齢者が参加されています。

今月の巻頭言にもありますように、10年後の教会を考えた時、どうなっているでしょうか。恐らく今以上に多くの高齢者信徒が増え、神父も少なくなっているでしょう。

それを考えると、今我々は何を準備しなければならないのか、若い人たちに受け継ぐ為にどのような教会でなければならないのか。そのことは信徒一人ひとりに課せられた大きな命題だと思います。どうか毎月発行しているこの教会報も大いに活用いただき、多くのご意見、ご提案をお寄せください。互いに支え合う教会であるためにも。

(T.H)

教会報 11月号の発行は10月30日(日)です。
原稿は10月16日(日)までに教会受付へご提出ください。

FAX 及びメールでも受付いたします。

(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電 話 078-851-2846

F A X 078-851-9023

発行責任者 アルフレド・セゴビア

編 集 広 報 部